

2016.11.13 全国ピアスタッフの集い

地域移行・定着支援の視点

～ピアスタッフと専門職の協働について考える～



社会福祉法人はらからの家福社会
ライフ・パートナー 中林澄明
総合施設長 伊澤雄一



圏域別の精神病床状況(人口万対病床数)

青梅市 178.4
(たぶん世界一)

北多摩西部 1

区西北部 17.9

区東北部 10.9

北多摩北部 30.2

西多摩 67.3

南多摩 50.9

北多摩南部 34.1

区西部 2.8

区西南部 9.3

区東部 1.5

区中央部 3.8

区南部 1.6

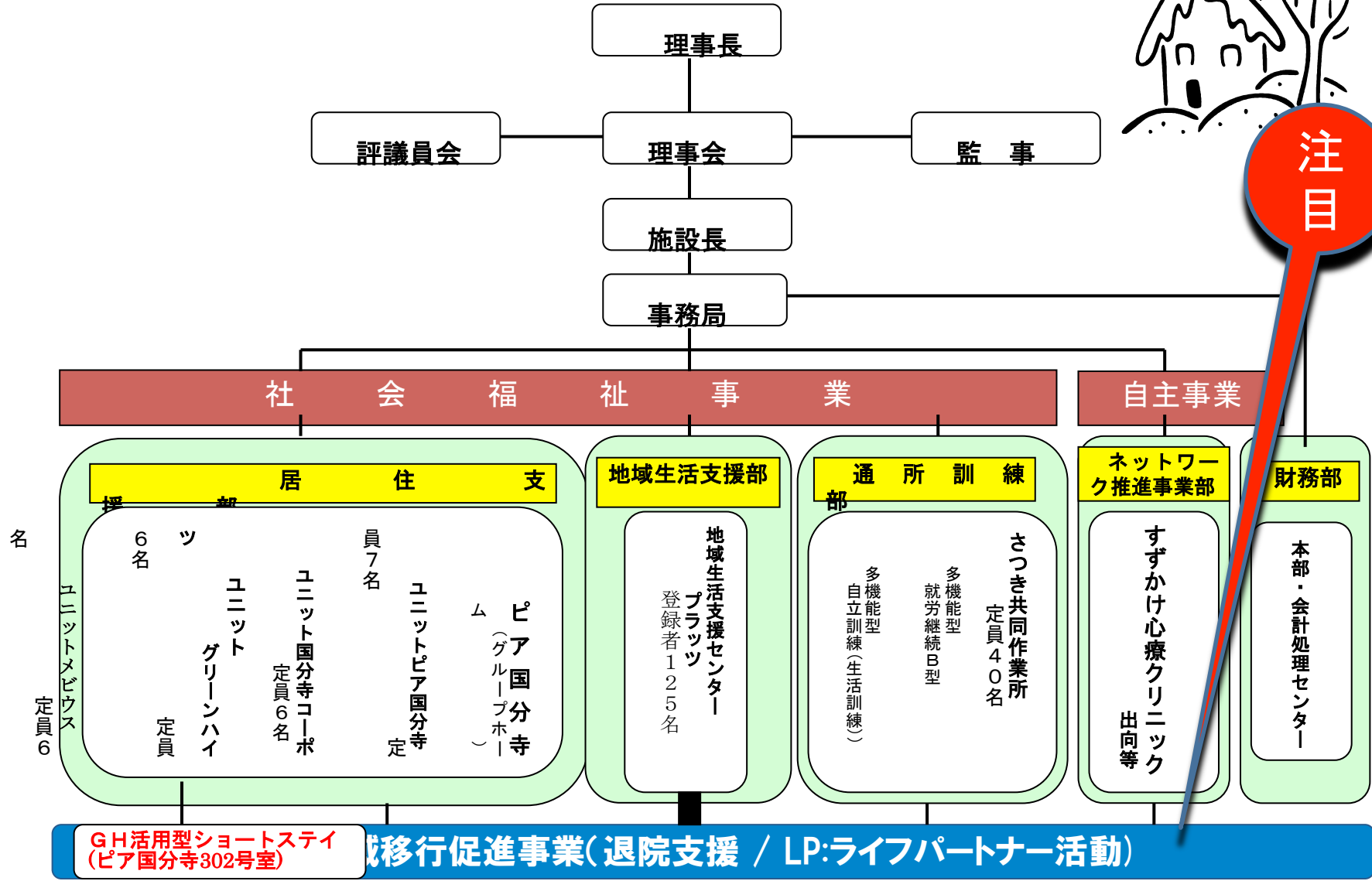
数値は、人口1万人に対する各圏域内の精神病床数

●は精神病床のある病院

社会福祉法人はらからの家福祉会 組織図



注目



はらからの家担当協力病院



病院名	所在地(圏域等)	病棟数	LPアプローチ
小金井病院	小金井市(近接市)	300床	○
武蔵野中央病院	小金井市(近接市)	210床	○
斎藤病院	府中市(近接市)	192床	○
根岸病院	府中市(近接市)	450床	○
久留米々丘病院	東久留米市(北多摩北圏域)	183床	-
清瀬富士見病院	清瀬市(北多摩北圏域)	120床	○
東京青梅病院	青梅市(西多摩圏域)	429床	○
鈴木慈光病院	青梅市(西多摩圏域)	298床	△
東京海道病院	青梅市(西多摩圏域)	450床	○
秋川病院	あきる野市(西多摩圏域)	120床	-

入院している人(心情と現実)

- ◆長期入院化により退院意思を持ちにくい心情や症状の変化となっている。
 - ・心情の推移：「怒」「嘆」⇒「慣」「安」⇒(退院のタイミング逃すと)「頼」「依」
…ついには「諦」「恐」
- ◆このような声をしばしば耳にする。
 - ・諦め：「最初から病院にずっといるつもりではなかった」、「自分が何をしたいか分からない」…
 - ・家族：「家族が反対している」、「このまま入院した方が家族にとっても自分にとっても良い」…
 - ・お金・制度：「年金しかもらってない」、「もう年で働けない」…
 - ・住まい：「地元に戻れない」、「帰れる場所がない」、「病院の近くしか知らない」…
 - ・生活環境：「世の中に追いついていけない」、「スマホができない」…
 - ・その他：「うるさい。寝た方がいい。動きたくない」、「面倒くさい」…

はらからの家としての退院支援

ピア活動を活かすこと

◆ピアの時代

◆実践の場づくり

➡ 1.体制作り促進

➡ 2.退院支援促進



体制作り促進

◆双方向(トップダウンとボトムアップ)による迫り

◆味方やルートを探す。

- PSWが軸になるとやりやすい
- OTのリハビリ概念は組みやすい
- 院長・事務長の一言があるとスムーズ～構造的迫り～

◆病院の一部とのつながり、外部から入ることへの安心を作る。

- 個別支援の実績
- 定期病院訪問プログラムの協議・提案と実施
- 「OT活動は退院準備」の共有化を徐々に吹き込む...



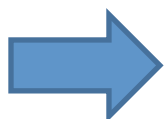
体制作り促進

◆つながった部分からより深く、広く院内普及

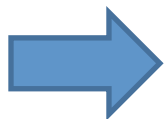
- ・院内研修会の提案、出講～ターゲットはNs～
- ・病棟単位のプログラム実施（病棟に埋もれた方達への働きかけプログラムなど）

◆各プログラムなど、つなげていく。院内の連携を強化

- ・各部署の人が協議・連絡の機会を作っていく



病院総体の地域移行促進体質の形成



…しかし、キーマンの異動などにより巻き戻ることも多い…。



体制作り促進

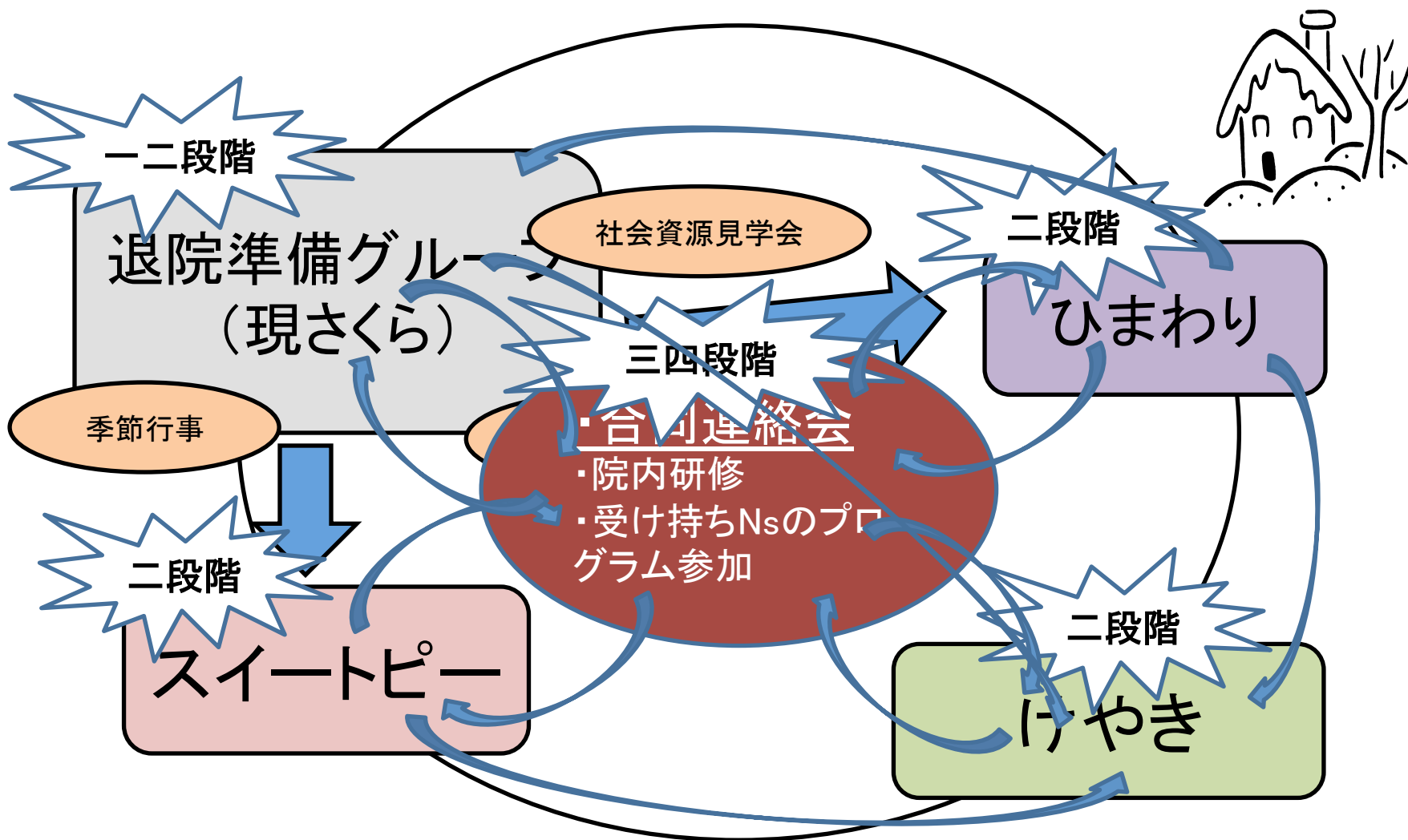
◆さらに病院と地域のつながりがシステムの的に構築されることをはかる。

・地元のピアグループや事業所の存在を活かし、活動紹介や交流を促進するプログラムの実施

- ・あくまでもはらからのイメージ。
- ・それぞれの病院や地域の特性により手法は異なる。



斎藤病院の体制作り



東京青梅病院の体制作り

外出資源の機会が乏しい患者さん
に対し

- ①外の刺激
- ②気分転換
- ③生活の喜び
- ④地域生活を学ぶ
- ⑤自ら買い物、食事

西4 ⇒ 西3 ⇒ 南2 ⇒
南1

短期プログラム

やお茶会をメインとし
めの退院準備プログ

院への背中押し

の本当の気持ちの確認

の不安な要素解消

ングスを探す

これらの退院への道筋

退院支援促進

～ライフパートナー(LP)～

◆活動の意図

- ・ 体験に基づく個々の暮らしぶりを事実情報として配信する事が大事→「みんな違ってみんな良い」の伝達
- ・ 「少し先行く生活者モデル」としての助言や意思形成の働き掛けは大きな力となる
- ・ …そして当事者活動への社会的評価や認知を確立していく一助として

◆「有償による業務」という責任と自覚

- ・ 全体で、おおむね月140時間ほどの活動



退院支援促進

～ライフパートナー(LP)～

◆活動風景(病院プログラム参加を基本として)

- 病棟、OT・OTA、季節行事への参加を通じて患者さんと直接的に接触、交流する
- 「生活者ナビ」・「情報発信者」・「語り部」・「種まく人」…等として、暮らしのリアリティーに立脚した現実的で実際的な話を伝える(絵が浮かぶよう)
- コミュニケーションを通じて探そう「ヒットポイント」
- 活動全体を通じて「地域で待っています」というサインを送る



お膳立て、舞台の準備、関係諸調整はスタッフ(Co)の任務。LPは個々の持ち味を存分に発揮するという役割分担が大事



LP募集要件

基本は、はらからの家福祉会の利用メンバー
(個別生活サポート・情報共有のため)

1. **入院の経験がある**
2. **自分の体験談を語れる**
3. **チームとしての調和関係への配慮**



ライフパートナー(LP)

各病院での活動

実施病院	実施内容
	<p>「OT退院準備G」における体験発表・情報発信(月に1回)</p> <ul style="list-style-type: none">・3グループ(早期・中期・長期退院)を対象に、LP発表・グループワークの勉強会形式・「季節の行事(クリスマス会)」にも参加し、事業説明と挨拶
小金井病院 (2007. 1~)	<p>「OTはらから見学会」における社会資源のイメージ作り(年に2回)</p> <p><u>「OTゲーム会」</u>における交流・情報発信・個別相談(月に1回)</p> <ul style="list-style-type: none">・ゲーム・声かけ・パワポ流しをツールに、交流促進と個別相談 <p>社会資源見学プログラム<u>「ういず」</u>における懇談と情報発信(2ヶ月に1回)</p> <ul style="list-style-type: none">・はらからの交流室にて、LPおもてなしの社会資源見学会
武蔵野中央病院 (2006. 12~)	<p><u>「OT情報発信プログラム」</u>における交流と情報発信(月に1回)</p> <ul style="list-style-type: none">・ゲーム・声かけ・パワポ流し・プラッツ通信折りなどをツールに交流促進



ライフパートナー(LP)

各病院での活動

実施病院

実施内容

齊藤病院
(2012. 12~)

「OTけやき」における体験発表・情報発信(月に1回)
・早期退院を目指し、LPの体験発表・グループワークを勉強会形式

「OTさくら」における体験発表・情報発信(年に4回)
・ゆるめの退院を目指し、LPの体験発表・お茶会を基本型に

「OT社会資源見学会」における社会資源のイメージ作り(年に1回)

病棟横断プログラム「OTひまわり(ミニカフェ)」における交流・個別相談・動機づけ(年に4回)

「OTスイトピー」における交流・情報発信(月に1回)
・退院予備軍に対し、料理作りなどをツールに動機づけ・他プログラム促し

根岸病院
(2013. 4~)

病棟単位プログラム「OT青葉会」、「OTダリア会」における情報発信(年に4回)
・LP体験談発表、交流をメインに長期入院患者さんへの動機づけ

「OT茶話会」における交流・グループワーク・再入院防止促し(年に2回)
・テーマトークと活用し、外来患者さんとの交流・情報交換

病棟横断型プログラム「地域交流会」における情報発信(年に1回)
・LPの体験発表・小グループを基本型に



ライフパートナー(LP) 各病院での活動

実施病院	実施内容
清瀬富士 見病院 (2012. 9~)	<p>任意プログラム「<u>ひまわり</u>」における交流・情報発信・動機づけ(年に3回) ・ゆるめの退院を目指し、LPの体験発表・お茶会を基本型に</p> <p>「<u>職員向け研修会</u>」における退院支援の院内普及(年に2回) ・LP体験発表を基本に、退院支援の情報発信</p>
東京青梅 病院 (2012. 9~)	<p>「<u>(仮)OT青梅のひかり</u>」における交流・動機付け・情報発信(月に1回) ・毎回テーマによるLPの体験発表・お茶会を基本型に * 2年半、病棟横断型「<u>お茶会交流会</u>」実施(月に1回)。</p> <p>「<u>OTはらから見学会</u>」における社会資源イメージ作り(年に1回)</p> <p>病棟横断型「<u>外出支援プログラム</u>」(月に1回;調整中) ・食事・買い物・社会資源見学を基本型に</p> <p>「<u>院内研修会</u>」における退院支援の院内普及(年に1回) ・ひまわり活動紹介・病棟内の退院支援プログラムお願い</p>



ライフパートナー(LP)

各病院での活動

実施病院	実施内容
東京海道 病院 (2010. 3~)	退院準備グループ「OTWill」における交流・情報発信(5ヶ月に1回) ・社会資源紹介・LPの体験発表・質疑応答を基本型に
その他 (井之頭 病院) (2016. 10~)	3病棟から、病棟単位プログラム「 <u>ピアメッセージ</u> 」、「 <u>ピアとの交流会</u> 」における交流・情報発信(年に6回) ・LPの体験発表・質疑応答・お茶会を基本型に

◆その他(H27年度の出向・出講)

「Ns研修会(2回)」、「職員勉強会(2回)」、「病院打合せ・年度振り返り(7回)」、「多摩総合精神保健福祉センター研修」、「UFE意見交換会」、「リハビリ全国フォーラム」、「神奈川県ピアスタッフスキルアップ研修」、「国分寺社協ボラセン(4回)」、「地域実習」、「リラク立川交流会」、「昭島市ボラ研修」、「杉並区連絡会」、「看護学生交流会」等

プログラム実施のパターン

◆早期退院準備プログラム

- ・既存のテキストにそっての具体的な勉強会形式(学習+質疑応答)
- ・目標は、「地域で安定して生活するための知識を身に付ける」
- ・4か月、5か月をワンクール。月2~4回実施
- ・院内職種との連携(Nsの参加、振り返り時のPSW⇒情報の共有)

◆ゆっくり、じっくり退院準備プログラム

- ・イメージ作りメインの勉強会形式(ゲーム・物づくり+お茶会・外出)
- ・目標は、「それぞれの退院までのプロセスを考える」
- ・1年ワンクール。月1~4実施。
- ・他職種との連携(振り返り時にPSW)

◆動機づけプログラム

- ・形式は病院によって異なる。
「病棟単位プログラム(お茶会・茶話会・SST)」、「OTプログラム(ゲーム会・ミニカフェ)」、「季節行事」、「LP体験発表(患者さん向け・職員患者さん向け)」、「外出支援プログラム」
- ・なるべく定期的に実施する。
- ・他の職員との連携を意識(必ず打ち合わせ・振り返り実施)



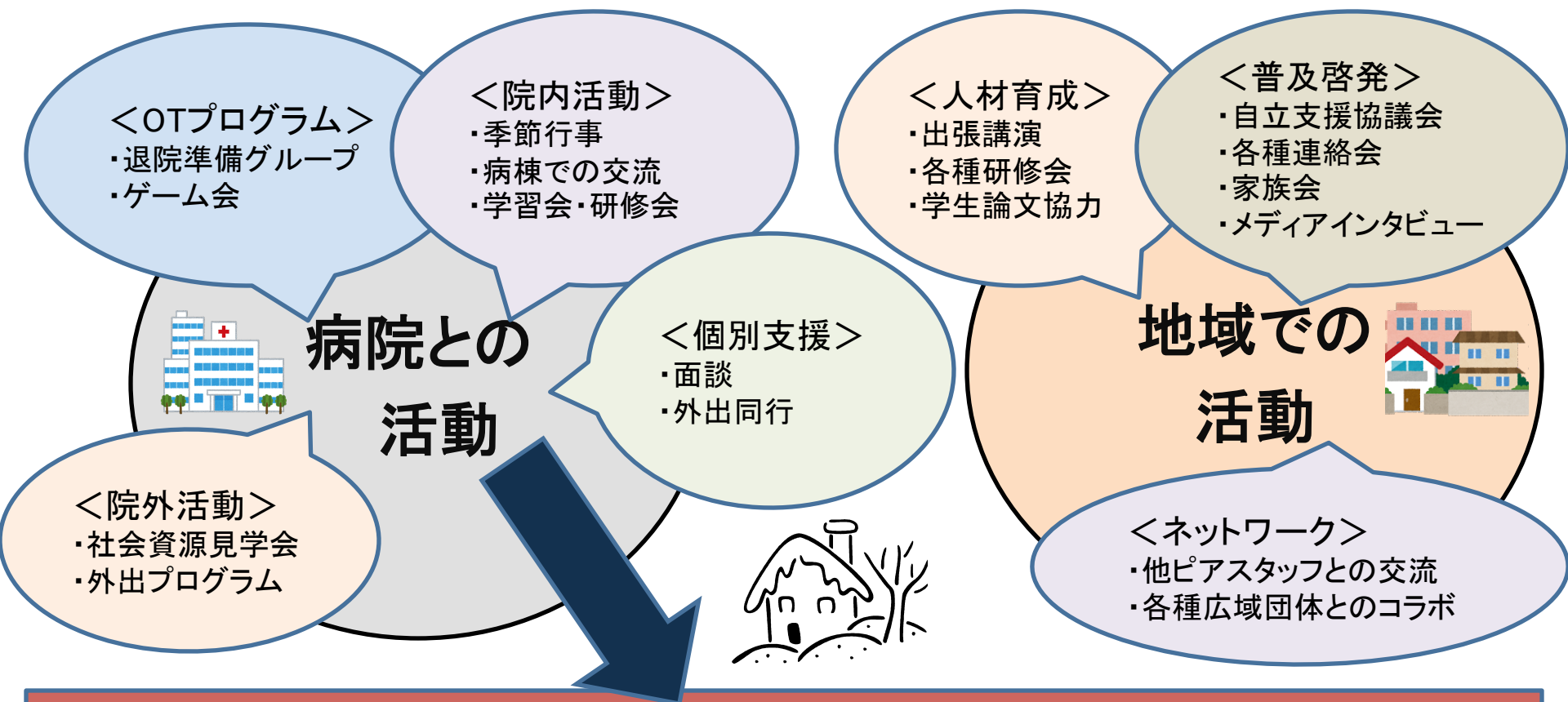
LP活動の意味・意義

(メンバー語録より)

- ◆ 自らの体験が人のために役立つ喜び
- ◆ 自分自身のリハビリとリカバリー
- ◆ 当事者の活動が認められてきている喜び
- ◆ 関わりの中かで患者さんが意欲をもち変化していくことを実感する
- ◆ 活動を通じて自らが成長する(聴くこと、待つこと)
- ◆ 新たな出会いにより知り合いが増え、人づきあいや関係性(人脈)が広がる(暮らしの豊かさ)
- ◆ LP・Coのチームワークによる局面の打開
- ◆ 収入が得られる…



ライフパートナー(LP)活動イメージ



- ①LPの動機付け → 個別支援対象者浮上・支援 → 退院
- ②LPと交流 → 見学 → ショートステイ利用 → 退院
- ③LPと交流 → 気持ちの整理・代弁 → 退院

受け入れ病院からの評価

齋藤HP

固定した窮屈な考えに縛られがちなあるかんじゃさんがLPの方から問題解決の方法が何通りがあることをadviceされて、不安から解放され、肩の荷が降りたと喜んでいました。やはり、そこ(advice)には当事者(LP)ならではの経験に裏打ちされた強い説得力があったからだと思いました。

東京青梅HP

長期院患者さんがLPさんと出会い、地域のことに興味・関心を持ち、実際の行動に結びついていることを実感しています。プログラムで前向きになった患者さんがCoのサポートで退院を見通しています。

受け入れ病院からの評価

小金井HP

私達職員よりも、同じような立場のLPさんの言葉は、患者さんに的確に届いているし、共感できるところが大きいです。退院に不安を感じている患者さんにとっても、LPさんの体験を聞き、具体的なイメージや安心感が形成され、今後の生活の励みになっています。

東京海道HP

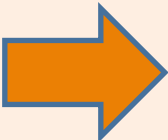
LPさんが社会復帰グループに参加して、具体的な話を同じ立場として発信することによって、患者さんも「私もできるかも」という希望を持っています。成功の体験よりも入退院・金銭などの失敗の体験は患者さんにとって共感しやすいし、私たち職員も社会資源の情報を確保し、生活環境や生活ぶりがリアルに感じられて大変勉強になります。

LPのかかわりでの退院者

(H27年度の場合; はらからの場合)

プログラムでLPとかかわった退院した方

活動HP	退院者	活動HP	退院者
小金井	11名 (OT9・見2)	東京海道	1名
武蔵野中央	3名	東京青梅	1名
斉藤	2名		

- 
- ・LPが病院プログラム参加でかかわった方たちのデータ
 - ・退院者が18名だが、個別支援対象者に上がってきた方、病棟単位のプログラムからの退院は算出していない。
 - ・HPのStがLPの例を出し、退院意思形成につなげた例もあり、LP活動の影響は非常に大きいと思われる。



はらからの家LP活動サポート

～LP活動を成り立たせる要素～

◆法人サポート体制

- Co以外の法人の職員は準Coに位置付け
- 個別生活のサポート(個別面談・支援含め)

◆活動の都度の振返り

- 打合せ⇒病院活動⇒院内振返り⇒LP会議振返り
- (必要に応じて)CoによるLP個々の面談対応

◆LP会議

- 前月活動振返り・今月の予定・各種告知
- それぞれの悩みについて皆で意見交換



はらからの家LP活動サポート

～LP活動を成り立たせる要素～

◆ 内部・外部研修 (その時のテーマに合わせて実施)

- ・内部: 統合失調症以外の対応方法、今更聞けないこと、自助グループ、精神保健福祉講座等…
- ・外部: 病院実習、地域移行・定着研修、ピアスタッフの集い・あみ全国大会等…

◆ 交流会

- ・内部: 暑気払い・忘年会・新年会
- ・外部: 他ピアサポーターとの交流会

◆ 年度個別面談

- ・振返りと年度の目標確認



はらからの家LP活動サポート

～LP活動を成り立たせる要素～

◆活動マニュアル作成

- ・皆で作って行く
 - ・私たちのルールは私たちが作って行く

◆賃金保障

- ・やりがいを感じれる金額保障
- ・非常勤職員の採用当時の金額(時給)で設定

◆その他

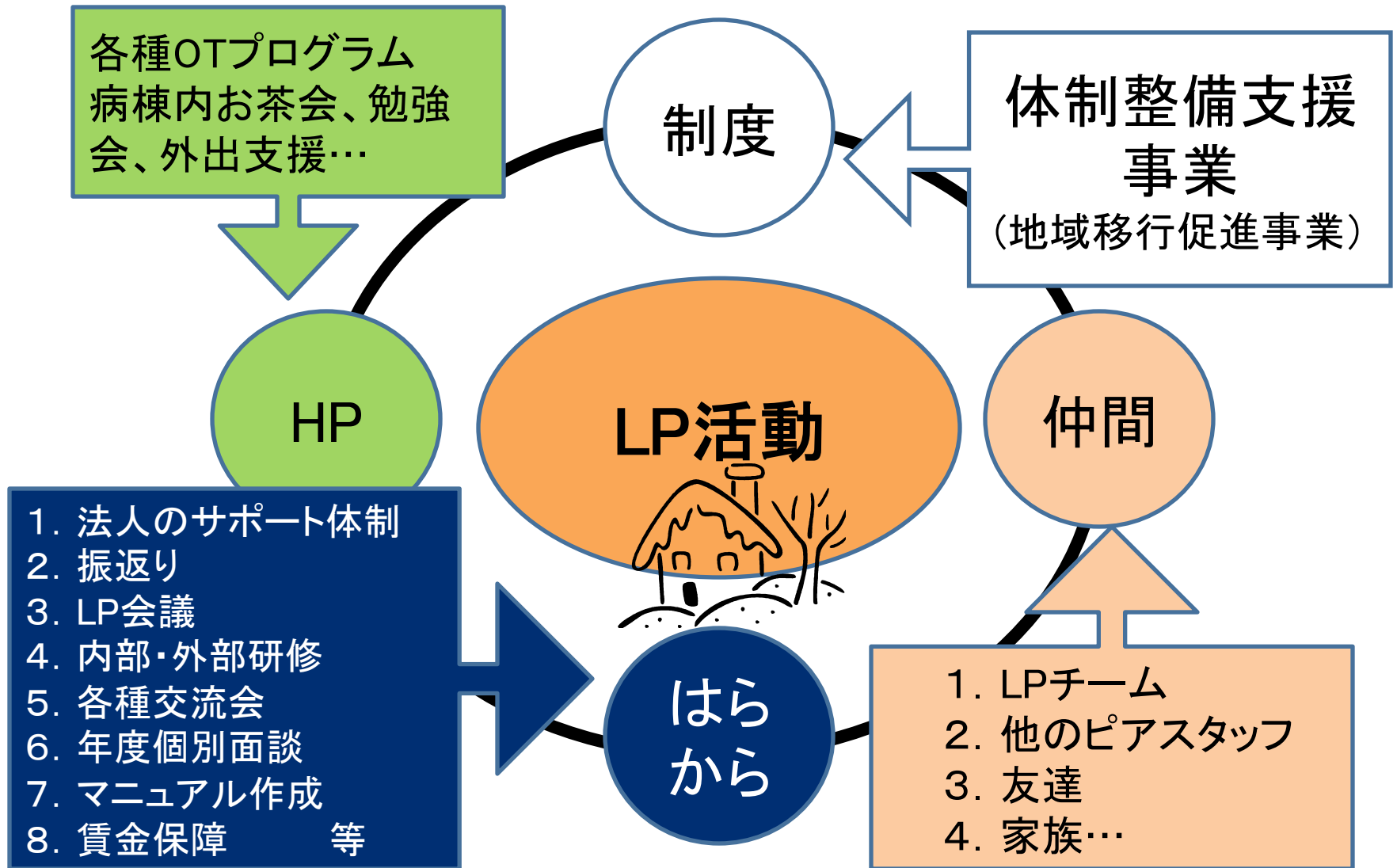
- ・各種保険…



各要素を運用しながら...

- ・LPが存分に持ち味を発揮する。
- ・LPとしてのチーム力を高める。

LP活動のサポート図



ご清聴ありがとうございました。

完

